

木を活かした
医療施設・福祉施設
事例集

一般社団法人木を活かす建築推進協議会
令和2年3月



この事例集の使い方

この『木を活かした医療施設・福祉施設 事例集』は『木を活かした医療施設・福祉施設の手引き』別冊として、『手引き』で掲載された事例に他の事例を追加して1冊にまとめたものです。

医療施設8事例、児童福祉施設等1事例、障害者支援施設及び老人福祉施設16事例の計25事例を紹介しています。

『手引き』と『事例集』はこれから医療施設・福祉施設を木造で、もしくは何らかの形で木を使って計画・建設しようとお考えの方々に、ガイドとして作成いたしました。

『手引き』は、木造化・木質化*の経験が豊富ではない設計者の方々も多くおられるため、その方々を対象に木の効果、木の使い方、木の性能・耐久性とはどのようなことかを知って頂くための、総合的なガイドになっています。

『事例集』は、写真、建物の概要、木造化の取り組みのポイント、事業者等の声で構成された、ビジュアル中心の手軽なものになっております。主に事業主の方に、実際の事例をご覧頂いて木造化施設を身近に感じて頂き、ご関心のある事例などを基に設計者や施工者にご相談して頂ければ幸いです。また、設計者の皆様には、事業主の方への提案時等の参考資料としてご活用頂ければと思います。

*木質化とは、鉄筋コンクリートや鉄骨造の建物の内装（床・壁・天井・建具・家具等）や外装に木を使うことです。

この事例集を作成した主体について

平成30年度と令和元年度の2年間にわたり、林野庁補助事業として「医療・福祉施設木材利用促進検討委員会」「医療施設木材利用促進検討ワーキンググループ」「福祉施設木材利用促進検討ワーキンググループ」を組織しました。その中で医療施設、福祉施設の木造化・木質化の情報・技術を収集し、現地調査を行い、それらを分析することで、医療施設・福祉施設に係る木材利用の検討を行いました。その結果をまとめ、『木を活かした医療施設・福祉施設の手引き』、別冊として『木を活かした医療施設・福祉施設 事例集』、『木を活かした医療施設・福祉施設 アンケート』の3部を作成いたしました。

令和元年度 医療・福祉施設木材利用促進検討委員会・ワーキンググループ 委員名簿

■ 医療・福祉施設木材利用促進検討委員会(五十音)

委員長	上野 淳	首都大学東京学長
委員	有馬 孝禮	東京大学名誉教授
	石井 敏	東北工業大学教授
	大橋 好光	東京都市大学教授
	岡本 和彦	東洋大学准教授
	松浦 和代	札幌市立大学教授
	山下 哲郎	工学院大学教授

◆ 医療施設木材利用促進検討ワーキンググループ(順不同)

主査	岡本 和彦	東洋大学准教授
委員	池田 宏城	株式会社オカムラ
	小林 健一	国立保健医療科学院上席主任研究官
	鳥山 亜紀	清水建設株式会社
	藤木 隆男	株式会社藤木隆男建築研究所
	三浦 敬明	株式会社山下設計
	森 一晃	株式会社竹中工務店

◆ 福祉施設木材利用促進検討ワーキンググループ(順不同)

主査	石井 敏	東北工業大学教授
委員	井出 良三	有限会社良建築設計事務所
	内山 佳幸	株式会社オカムラ
	梅田 晶子	株式会社乃村工藝社
	大井 幸次	大久手計画工房
	沖浦 博	三井ホーム株式会社
	涌井 陽広	住友林業株式会社
	佐藤 憲一	株式会社メドックス
	山口 健太郎	近畿大学教授

医療施設 事例紹介

- 事例 1 医療法人恕泉会 リハビリテーション病院 すこやかな杜 → p.1
- 事例 2 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院アネックス棟 → p.5
- 事例 3 お産の森 いのちのもり 産科婦人科 篠崎医院 → p.9
- 事例 4 医療法人杏月会 空の森クリニック → p.13
- 事例 5 新柏クリニック → p.17
- 事例 6 地方独立行政法人宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター 緩和ケア病棟 → p.21
- 事例 7 医療法人共生会 川湯の森病院 → p.25
- 事例 8 平取町国民健康保険病院 → p.27

児童福祉施設等 事例紹介

- 事例 1 TSURUMIこどもホスピス → p.29

障害者支援施設 及び 老人福祉施設 事例紹介

- 事例 1 有料老人ホーム ごんの里 → p.33
- 事例 2 有料老人ホーム あんのんの里川跡 → p.37
- 事例 3 小規模多機能、サ高住、特養ほか ケアタウンたちばな → p.41
- 事例 4 指定障害者支援施設 あぶくま更生園 → p.45
- 事例 5 障害者支援施設 若草園 → p.49
- 事例 6 特別養護老人ホーム 国見の里 → p.53
- 事例 7 特養、ショートステイ よりあいの森 → p.57
- 事例 8 デイサービス、ショートステイ あたり前の暮らしサポートセンター → p.61
- 事例 9 特別養護老人ホーム なごみの里ななせ → p.65
- 事例 10 特別養護老人ホーム 幸の郷 → p.69
- 事例 11 有料老人ホーム あくらすJ → p.73
- 事例 12 特別養護老人ホーム かざみ鳥 → p.77
- 事例 13 特別養護老人ホーム ハートホーム宮野 → p.81
- 事例 14 有料老人ホーム あっとほーむ鎌倉山 → p.85
- 事例 15 特別養護老人ホーム ときわぎ世田谷 → p.89
- 事例 16 特別養護老人ホーム 花畑あすか苑 → p.93

事例1

医療法人恕泉会 リハビリテーション病院 すこやかな杜 ～木の持つ癒しの力を活かした医療環境の整備～

法人名：医療法人恕泉会 所在地：高知県高知市 開設年月：2007年12月

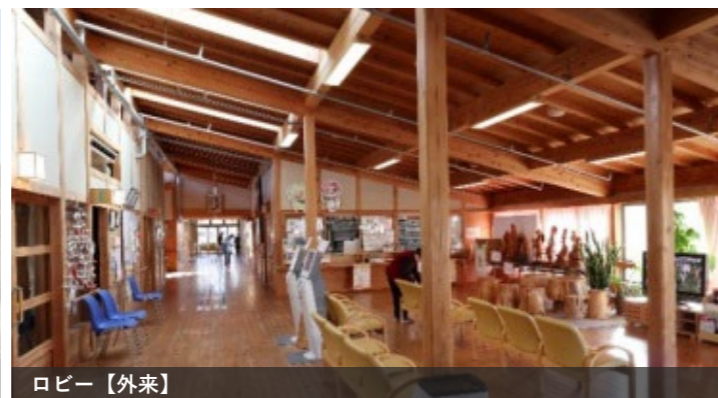


南側上空より全体を見る

画像 ©2020 Google, 地図データ ©2020, 地図データ ©2020 10 m



北病棟



ロビー【外来】

事業概要

- リハビリテーション病院
- 回復期リハビリテーション病棟
- 病床数：60床

建築概要

階数	地上2階建て
地域制限	なし
耐火種別	その他建築物
敷地面積	23,600㎡
延床面積	4,813㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計	山本長水建築設計事務所 及び有限会社テラ
施工	入交建設株式会社
工事工期	2007年6月～2007年12月

木造施設としての工夫

1. 親しみやすいしつらえの外来空間



待合室【外来】

待合室は、柱、梁及び屋根架構を木現しとし、床、壁、天井、家具等に木を用いている。木に囲まれた温かみと落ち着きのある雰囲気形成している。



診察室【外来】

診察室は、床をヒノキの無垢フローリング、壁及び天井も板張りとしている。また、家具も木製とし、患者が安心して診察を受けられる落ち着いた診療空間となっている。

2. 患者に安心感を与える検査室



CT室【診療】

CT室は梁を現しとし、床を無垢フローリングとし、放射線を防護するための壁の仕上げにも無垢の木板を張っている。天井には木目調化粧合板を張り、視覚的に患者の緊張感を和らげる工夫がなされている。



X線室【診療】

X線室もCT室と同様に、梁を現しとし、床を無垢フローリングとし、放射線を防護するための壁の仕上げにも無垢の木板を張っている。

施設概要

- ・すこやかな杜は、診療棟、リハビリ棟、北病棟、中央病棟、南病棟による、木造2階建と平屋の分棟による構成となっている。木造住宅のような建物という考え方で設計されており、建物間の中庭はリハビリテーションの場ともなっている。
- ・「木造特有の温かみのある広々とした空間のなかで、木の持つ癒しの力を最大限に受けて治療に専念できる環境を、より多くの方に実感していただきたい。」という思いを持った建築主の法人理事長の方針が、「木造住宅の感覚で医療施設を設計する」というものであった。こうした建築主の強い意向に基づき、設計者、施工者が木造化・木質化に取り組み、実現した。
- ・各棟を1,000㎡未満に分棟し、2階の病室は300㎡未満にすることで、その他建築物を実現している。

木造・木質化の特徴

3. 診療ゾーン



理学療法室（2階）【診療】

丸太の登り梁と方丈丸太で構成された架構が、木に包まれたような安心感のある空間を実現している。また、床は車椅子対応に考慮し、硬いヒノキの無垢フローリングを用いている。



理学療法室（1階）【診療】

多様なリハビリ治療に対応できるように、丸太の方丈を用いて梁間方向のスパンを飛ばしている。丸太を用いることで、衝突時の事故を軽減させることにも寄与している。

4. 病室



病室【病棟】

病室は真壁づくりとし、住宅のような親しみやすい雰囲気を形成している。多様な要素で構成された変化のある空間形状や、複数の仕上げ材による色や質感の違いにより、スプリンクラーの配管はあまり目立たない。

5. 診療ゾーン



言語療法室【診療】

言語療法室は方形屋根に登り梁が放射状に掛けられ、木材がふんだんに用いられている。患者が医師の声を聞き取りやすくするための配慮にも関連していると考えられる。

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

- ・鉄筋コンクリート造の建物に比べ、冬に底冷えする感じがなく、壁などに触っても冷たくないのがよい。また、鉄筋コンクリート造の医療施設では落ち着きのない子供が、当施設では落ち着いて診察を受けることができる。[運営者]
- ・消毒は行っているが、病院臭がせず、木の香りが落ち着く。[運営者]
- ・法人グループの施設管理部門が毎月点検を行い、補修等の維持管理を実施している。修繕等は手がかかるが、それ以上に木造の良さを享受している。[運営者]

施設写真・図面



診察室 流し【外来】

診察室用の流しが組み込まれた木製収納家具。天板は集成板に塗装仕上げとし、汚れ防止のため、ビニールシートが敷かれている。



診察室 家具【外来】

診察室と通路を仕切る部分に配置された木製の家具。背板をスギ板の化粧張りとし、木質感の向上に寄与している。



診察室カルテ棚【外来】

診察室と通路を仕切る木製のカルテ棚。木質化が可能な部分には積極的に木を採用している。



X線室 建具【診療】

放射線を防護するために鉛板を挟んだ木製建具。



病室 前室【病棟】

病室の前室。洗面とトイレがあり、壁と建具が木質化されている。



病室 トイレ【病棟】

壁にスギ板が張られた病室トイレ。床はメンテナンスがしやすいよう、塩ビシート張りとなっている。



北病棟及び中庭

各病棟間には、中庭が設けられている。散策路や畑、庭などがあり、リハビリの一環としても活用されている。



事例2

医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院 アネックス棟 ~五感に働きかける木の空間でリハビリを支援~

法人名：医療法人社団和風会 所在地：大阪府箕面市 竣工年月：2018年1月



事業概要

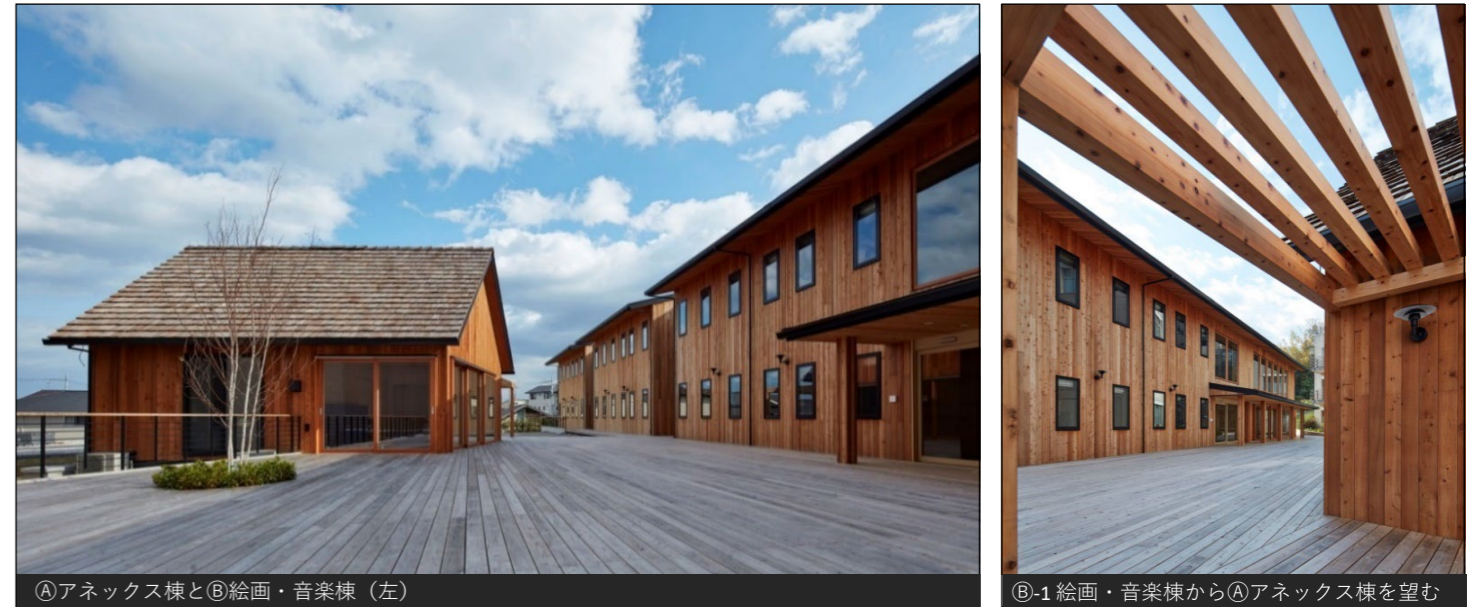
- リハビリテーション病棟（新棟）
- ④アネックス棟：ベッド数34床
- ⑤付属棟：絵画・音楽棟、園芸棟
（既設の鉄筋コンクリート造病院棟と別棟で新築）

建築概要

階数 ④地上2階建て／⑤平屋
地域制限 —
防耐火種別 ④準耐火建築物（イ準耐）
敷地面積 4,350.79㎡
延床面積 1,421.98㎡
構造種別 木造（軸組工法）
デザイン 株式会社サムライ（佐藤可土和）
基本計画 川島浩孝／株式会社共同建築設計事務所
設計施工 住友林業株式会社
工事工期 2017年1月～2017年9月

木造施設としての工夫

1. 建物の外観・外構に木を多用する



アネックス棟と付属棟（絵画・音楽棟、園芸棟）は外壁を木板張りとし、勾配屋根の軒庇で外壁を雨水から保護している。建物の周囲にはウッドデッキを敷き、患者が安心して戸外に出やすくなるようにしている。木造の採用により、隣接する住宅や公園と調和した佇まいを形成している。

2. 内装・構造材を木現しにする



スプリンクラー設備を設置し、内装制限の適用を除外し、燃えしろ設計にて、床・壁・天井に木をふんだんに用いている。

施設概要

千里リハビリテーション病院は、主に脳血管疾患の患者にリハビリ医療を提供する医療機関である。「リハビリテーション・リゾート」をコンセプトとして、患者がリラクゼーションしてリハビリに取り組める環境づくりを実践している。病室、リハビリ室を備えたアネックス棟と付属棟（絵画・音楽棟、園芸棟）を木造で整備。木を使った空間は、患者に対し安心感を与え、五感を刺激するので、リハビリに適していると考えられている。

木造・木質化の特徴

3. 診療ゾーン



①リハビリコーナー【診療】

ホールに面するオープンなスペースに配置。個室以外にも、くつろげる空間が広がっている。

4. 病室



②病室のベッド【病棟】

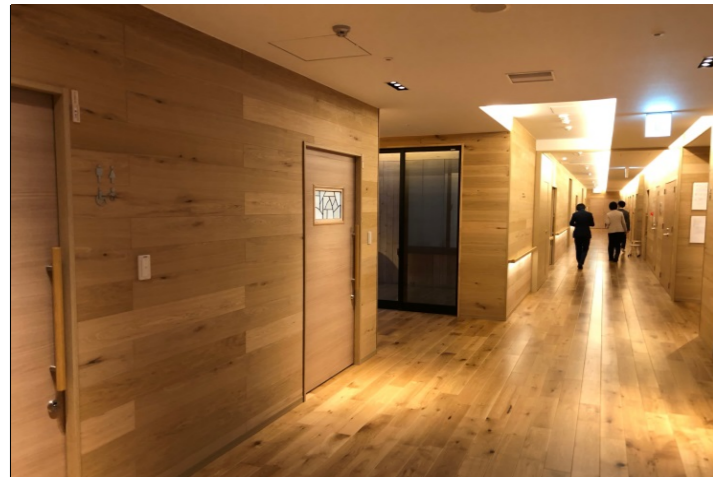
床と壁を木で仕上げている。ベッドのフレームも特注の木製である。



③病室の洗面室【病棟】

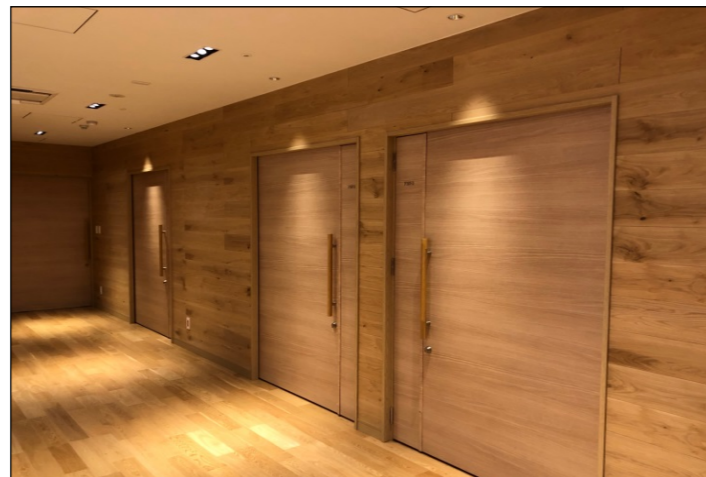
患者の日常生活動作(ADL)の向上を意図して、病室に洗面台を設置。木質化した病室に調和した素材を用いている。

5. 廊下／病室前室



④廊下／病室前室

壁と床に木を用いることで歩行の負担を軽減し、また、温かみも感じられる。手すりの下部に照明をしつらえ、足元を明るく照らしている。病室への出入口は引き戸で、木調の雰囲気を取り入れている。床はオーク、壁パネルはナラ材。



⑤廊下／病室前室

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

- ・当初鉄筋コンクリート造で計画を進めていたが、木造の「ふつうの家」をイメージし、住宅メーカーを対象にコンペを実施して設計者を選定した。 [運営者]
- ・意識障害がある患者様に対しては、五感に触れる刺激を入れていくこと、リハビリ以外の時間にも刺激に反応させることが大切である。木造の建物は、温かく、体にやさしい感じがする上に、木の香りや見た目の多様性、接触感など、患者様の感覚に刺激を与える要素に富み、当機関の医療サービスに適している。 [運営者]
- ・木造の施設だから入りたい、移りたいという希望を患者様からお受けするようになった。 [運営者]

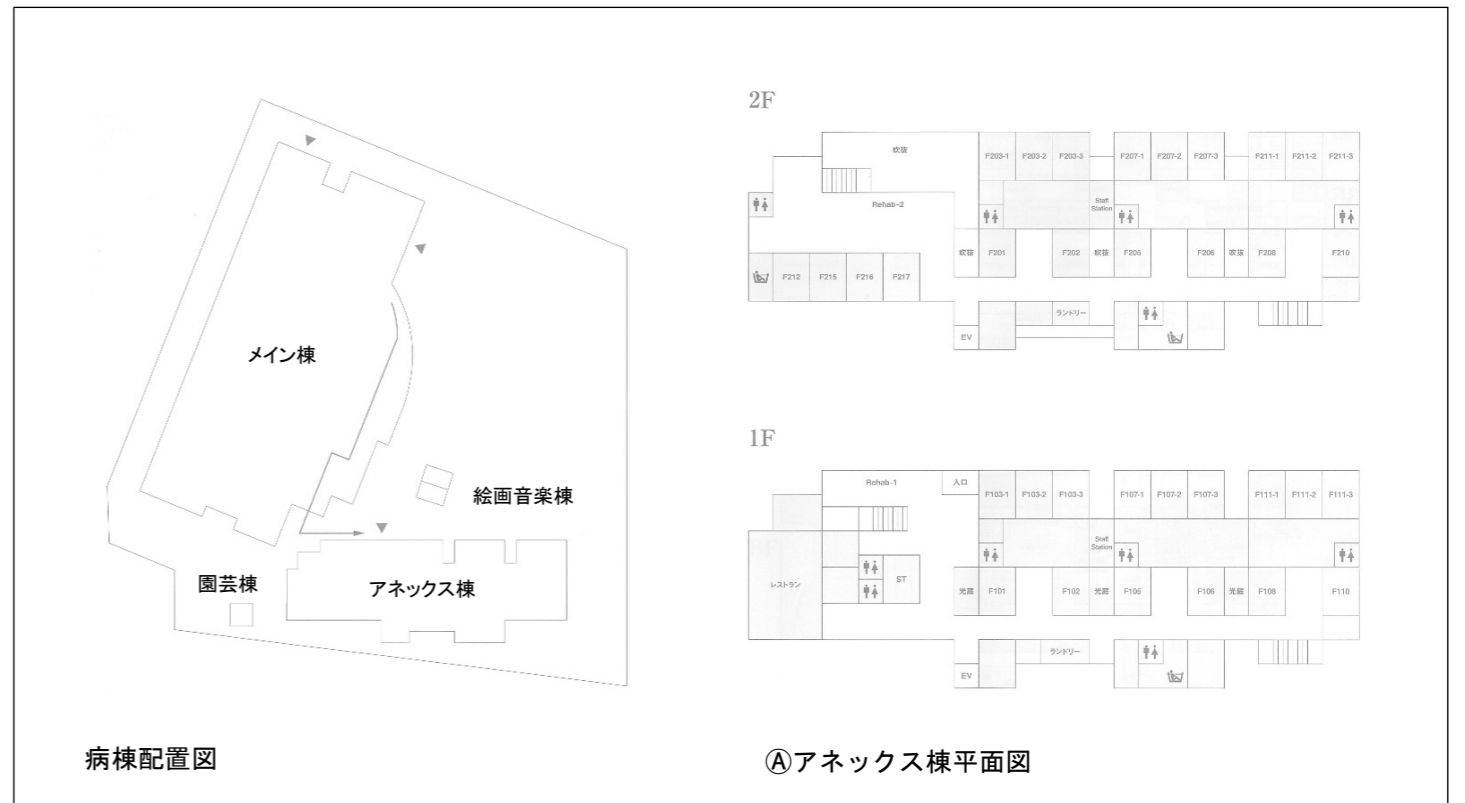
施設写真・図面



⑥付属棟 (左から) 絵画・音楽棟内観／園芸棟内観／園芸棟外観



⑦既設棟 (鉄筋コンクリート造) 左から、病室 (特別病室) / スタッフステーション / レストラン



病棟配置図

⑧アネックス棟平面図

事例3

お産の森 いのちのもり 産科婦人科 篠崎医院 ～住宅スケールの空間による癒し効果のある医療施設～

建築主：篠崎 英雄 所在地：茨城県守谷市 開設年月：2010年3月



施設全景



中庭を介して親密感のある病棟部分（左及び奥）、デイルーム（右）を見る



デイルーム天井見上げ【病棟】

事業概要

- 産科婦人科診療所
- 病床数：9床

建築概要

階数	地上2階建て
地域制限	市街化調整区域（防火制限なし）
防耐火種別	その他建築物
敷地面積	2,538㎡
延床面積	753.59㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計	株式会社藤木隆男建築研究所
施工	岡部工務店
工事工期	2009年8月～2010年3月

木造施設としての工夫

1. 木造で馴染みやすいスケールにしつらえる



待合室【共用動線】



お産のへや（和室の分娩室）【病棟】

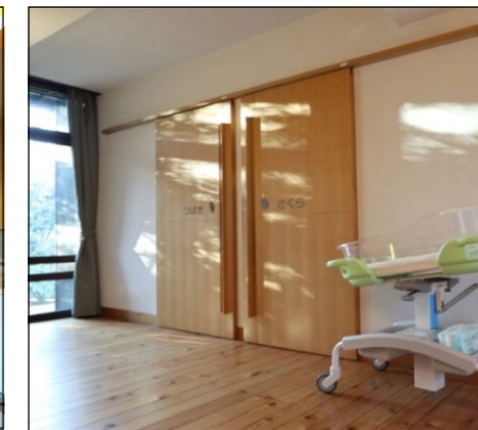
施設全体を住宅のような親しみやすいスケール感としている。待合室はベイマツによる柱及び登梁、タモフローリングによる床、木製建具及び家具でしつらえ、落ち着いた雰囲気形成している。分娩室は床はスギ縁甲板、木製建具及び家具でしつらえ、住宅の居室のようなスケール感と安心感を実現している。

2. 内装制限を受けない部位を中心に木質化をはかる



廊下【共用動線】

柱・梁はスギ、床はスギフローリング、木製外部建具を用い、親しみやすい落ち着いた空間を形成。内装制限が適用される天井の一部には準不燃スギ化粧合板を用いている。



入院室出入口建具【共用動線】

廊下に面した全ての入院室の建具は比較的開口幅の広い木製引戸とし、白い漆喰壁にあたたかみのあるアクセントとなっている。



デイルーム【病棟】

柱・梁はベイマツ集成材、床はタモフローリング、木製の階段及び家具でしつらえ、住宅の居間のような落ち着いた空間を形成。内装制限が適用される天井は準不燃タモ化粧合板。

施設概要

本産科婦人科医院は、中庭を中心に診察室・事務室エリア、入院室エリア、お産・手術室エリア、デイルームで構成されている。院長先生の、小規模な地域医療の拠点は「もう一つのおうち」でなければならないという明確なビジョンのもと、木造住宅のような親しみやすく安心感のある施設を実現している。

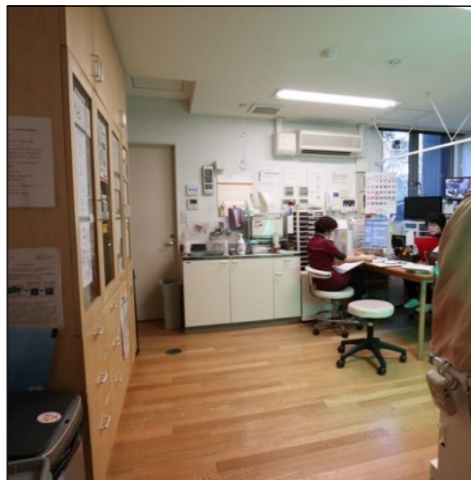
木造・木質化の特徴

3. 妊婦検診 診察室【診療】



床はタモフローリング（清掃性向上のためコーティング済）。建具及び家具にも木を用い、安心感のある空間を形成している。

4. スタッフ室【病棟】



床はタモフローリング、建具及び家具にも木を用い、入院者が安心して訪れやすい雰囲気形成している。

5. ラウンジ【病棟】



柱はスギ丸太、床はスギフローリングを用い、天井高さを抑えて落ち着きがあり、人が憩いやすいコーナーとしている。

6. 廊下【病棟】



柱及び登梁はスギ、床はスギフローリング、天井（一部）及び建具にも木を用い、木に包まれた温かみのある空間を形成している。内装制限が適用される天井の一部には準不燃スギ化粧合板を使用。



7. 入院室【病棟】



梁はスギ、床はスギフローリング。畳敷の小上りにより住宅のような空間を形成。

施設写真・図面



風除室【共用動線】

外壁材にはベイマツ、建具にも木を用いた寄り付き空間。



エントランス【共用動線】

化粧梁、建具に木を用いたエントランス。



受付【外来】

柱、床、カウンターや棚に木を用い、柔らかい光を発する照明器具を配した受付。



沐浴室/手術室前室【診療】

家具の一部や建具枠に木を用い、安心感を誘発する沐浴室。



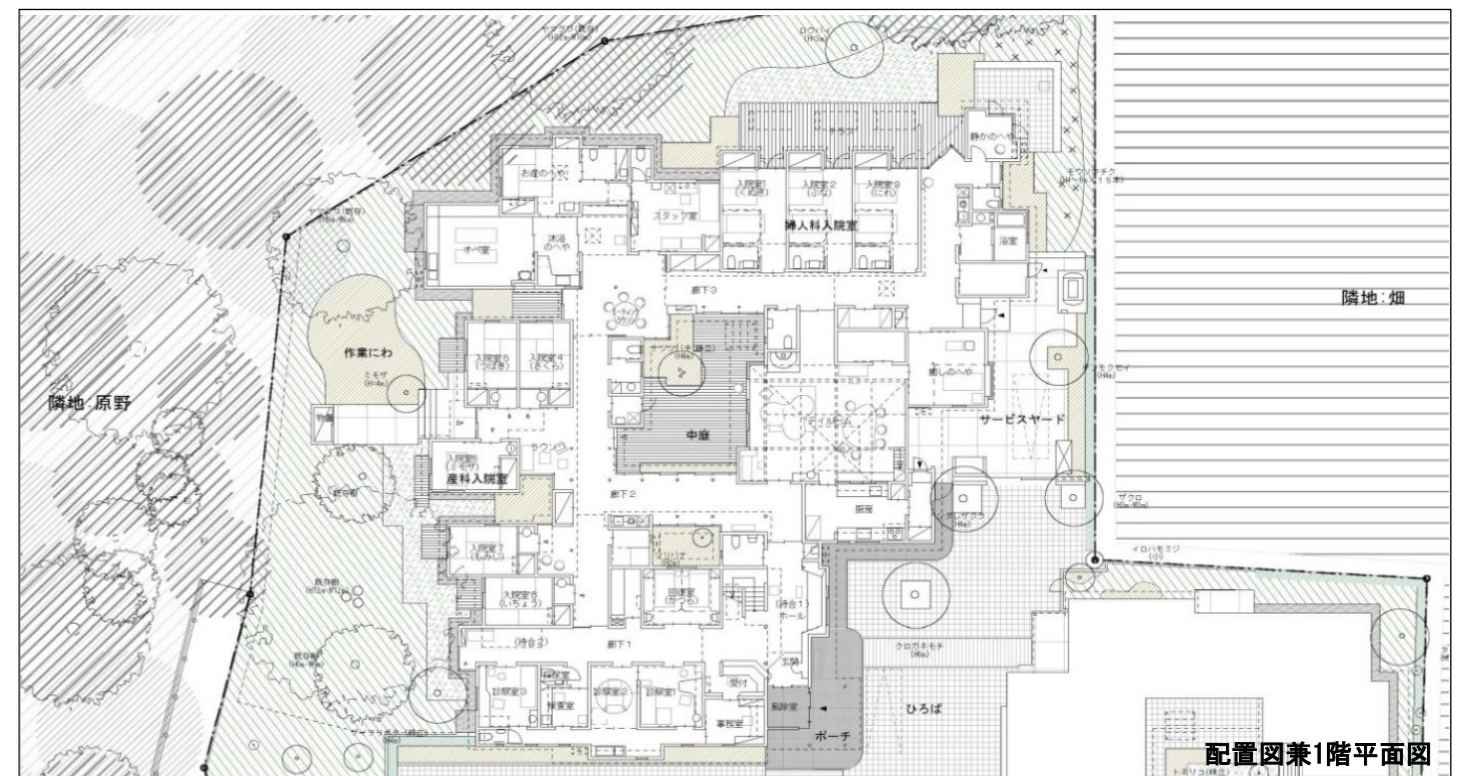
入院室（和室）【病棟】

梁はスギ、床は畳、腰壁にスギ板でしつらえた入院室（和室）。



ディールーム手洗いコーナー【病棟】

水がかかりにくい部分に積極的に木を用いた手洗い。



配置図兼1階平面図

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

- ・妊婦さんが住宅に居るように安心してお産ができる施設を目指し、木造の平屋建て（一部2階建て）を選択したため、鉄筋コンクリート造で建てる選択肢はなかった。[運営者]
- ・緊張して来院する妊婦さんが、普段自宅にいるのと同じように安心してリラックスされていることが多いようだ。木の匂いによるアロマ効果で落ち着くという人もいる。鉄筋コンクリート造よりも時間がゆっくり流れている印象がある。[運営者]

事例4

医療法人杏月会 空の森クリニック

～森を再生を通じて医療と癒しの融合をめざした医療施設～

法人名：医療法人杏月会 所在地：沖縄県島尻郡八重瀬町 開設年月：2014年11月



南東側外観 撮影者：木田勝久/FOTOTECA



待合より中庭を見る 撮影者：木田勝久/FOTOTECA



受付

事業概要

- 産婦人科（診療所）
- 病床数：18床

建築概要

階数	平屋
地域制限	市街化調整区域（防火制限なし）
防耐火種別	その他建築物
敷地面積	12,762.77㎡
延床面積	2,996.60㎡
構造種別	木造、一部鉄筋コンクリート造
設計	株式会社手塚建築研究所
施工	株式会社沖電工
工事工期	2013年8月～2014年10月

木造施設としての工夫

1. 内外が連続した開放的なしつらえを実現する



病室

病室は木造（欧州アカマツの集成材による柱・梁架構）とし、真壁工法により柱・梁を現しとしている。天井は不燃処理を施した構造用合板で仕上げ、木の温もりが感じられる療養空間となっている。



半屋外空間となっている廊下

柱、梁、天井を木質化した幅1,820mmのゆとりのある廊下は、緑豊かな中庭に面した南国らしい半屋外空間にしつらえられ、開放感のある快適な空間を実現している。

2. 木造部分と鉄筋コンクリート造部分とを防耐火上明確に区分し、温かみのある木質空間を実現する



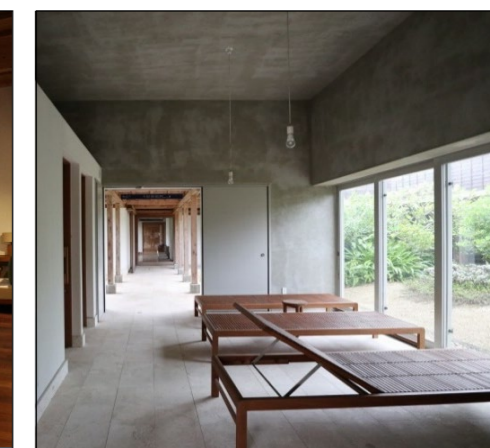
病室

柱・梁を現しとした病室は、床、天井、家具、ブラインドを木質化し、温かみと落ち着きのある空間を演出している。メディカルコンソールは、木製の造り付けとしている。



木質化された待合室

診察や検査等、長時間でも快適に待機できるように床、天井、家具を木質化し、落ち着きのある空間を提供している。



ラウンジ（防火区画）

鉄筋コンクリート造によるラウンジ空間を防火区画として4ヶ所設置している。これにより、建物全体を1,000㎡未満の4つの棟に分割し、その他建築物として成立させている。

施設概要

第二次世界大戦で失われた沖縄本来の森を再生し、新たな命を育み、木造の巣をつくることを試みている。深い軒と外廊下が森の間を巡るリゾート施設のような不妊治療の診療所である。不妊治療は、患者の心理的、精神的な負担が大きいため、プライバシーを確保し、リラックスできる施設づくりを目指している。手術室、培養室など衛生性が要求される部分を除き、非常に開放的な木造化・木質化空間となっている。

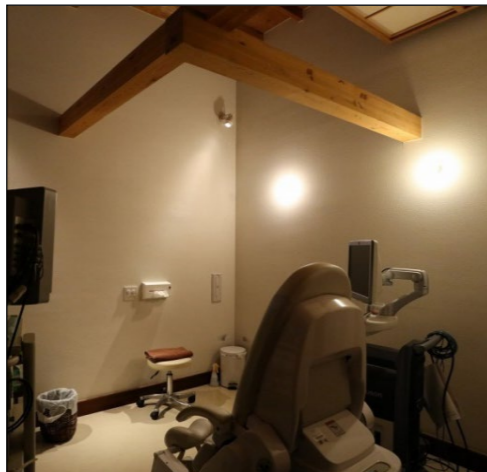
木造・木質化の特徴

3. 産科受付・待合室【外来】



当初スタッフ用のカフェだった部屋を産科の待合室に改修。木の柱・梁が現しであったため、壁の増設等を容易に実現している。

4. 診療室【外来】



診察台回りのみ床を塩ビシート張りとしている。診察に必要な照明以外は照度を落とし、安心できる空間を演出している。

5. 処置室【外来】



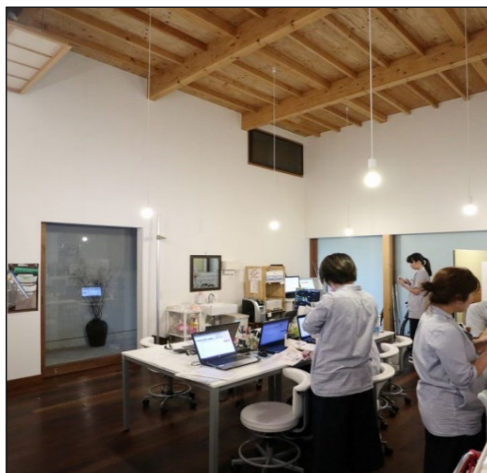
床は塩ビシート張りとしているが、衝立や天井に設置したエアコンの目隠し格子を木質化して温かみのある空間に仕立てている。

6. 分娩室【診療】



当初は医局として整備した部屋を分娩室に改修し、床はフローリングから塩ビシートに張り替えられている。

7. ナースステーション【病棟】



患者が安心感が得られるよう落ち着いた雰囲気にしつらえられている。看護師も威圧感を和らげるカジュアルな制服を身につけている。

8. 手術室【診療】



衛生性が求められる手術室は鉄筋コンクリート造の棟に設置され、全ての部位は非木質系の材料で仕上げられている。

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

木造を選択した理由

- ・第二次世界大戦で失われた沖縄の森の再生を目指している。森を再生することは、癒しが必要な医療にも通ずるという考えから、空の森プロジェクトをスタートさせ、「森」というキーワードから設計者より木造の提案を受けた。当初木造で医療施設を作ることに迷いがあったが、理事長自身も木造住宅で生まれ育った経験から、挑戦に至った。[運営者]
- ・今後の医療施設運営は様々な変化が想定される。そのような中、当該施設への新たな投資や用途変更も可能な長期耐用性に優れた木造施設づくりも検討した。医療と癒しの融合を目指し、医療の世界の科学万能主義に一石を投じたとも考えている。[運営者]

施設写真・図面



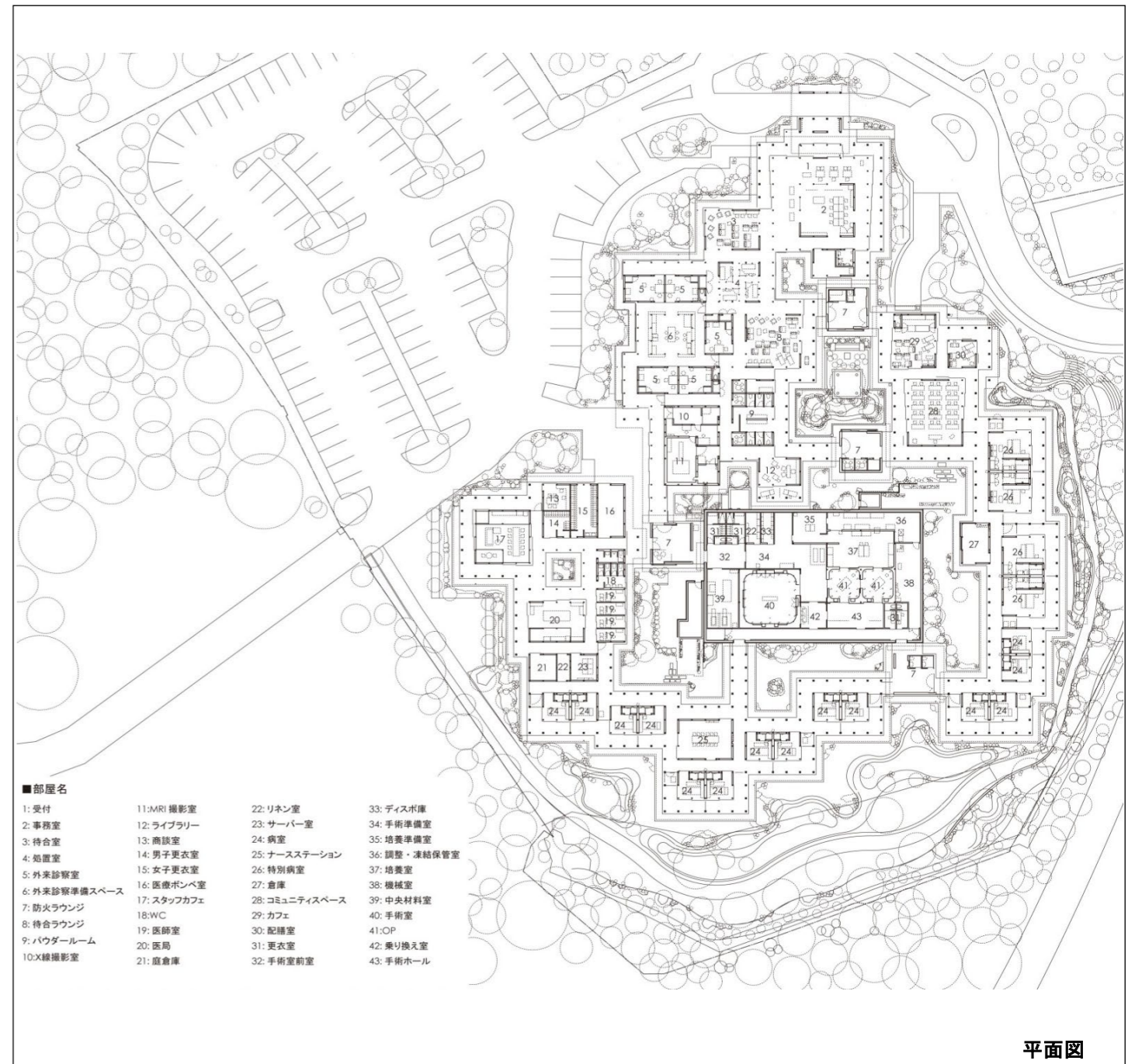
ライブラリー

患者が待ち時間の間に利用している。床、天井、家具が木質化され落ち着いた雰囲気を実現。



パウダールーム

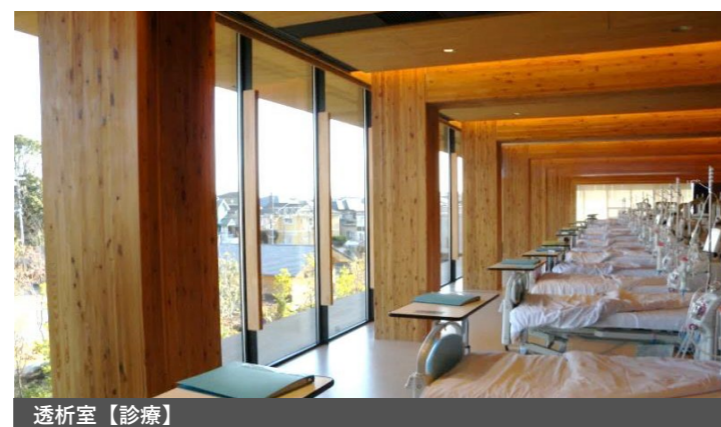
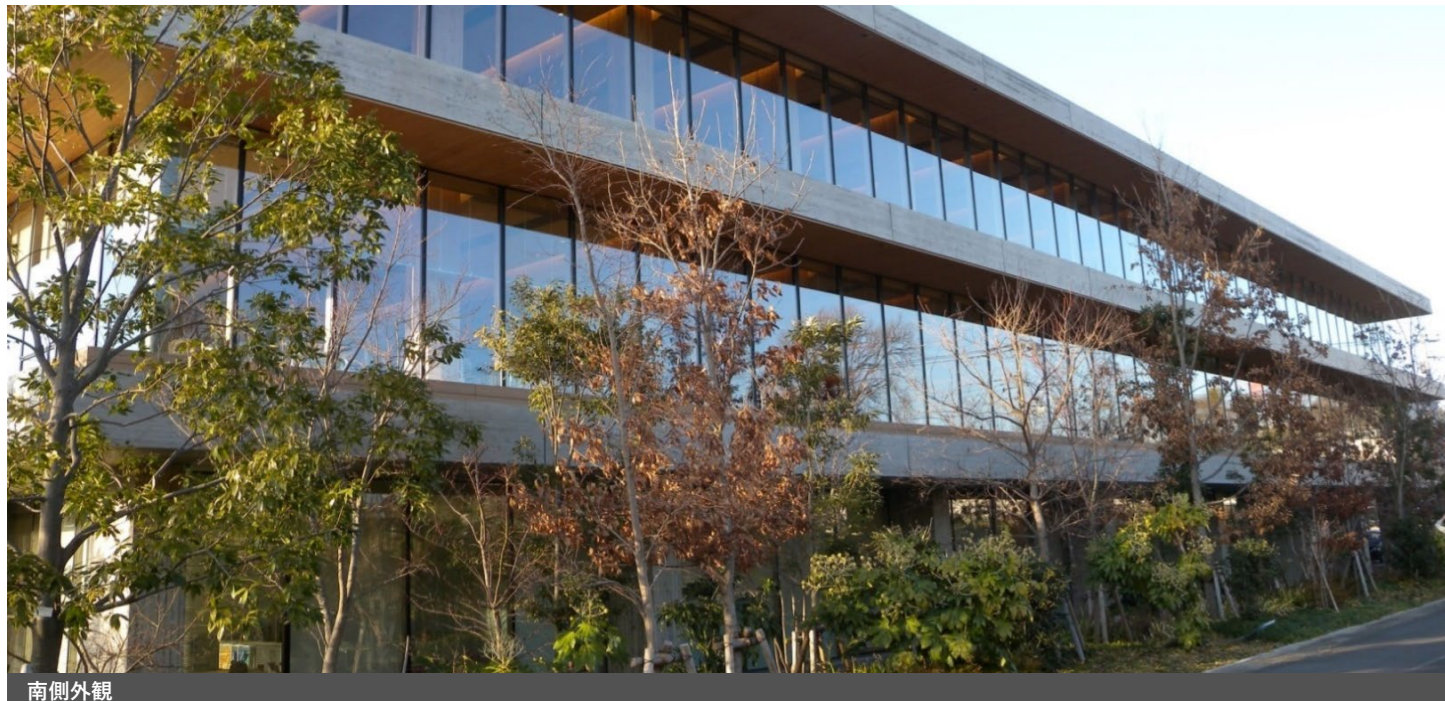
天井、ブース、洗面台、鏡枠を木質化した温かみのあるパウダールーム。



平面図

事例5 **新柏クリニック**
 ～木造耐火構造の技術を用いた3階・混構造の医療施設～

法人名：医療法人社団中郷会 所在地：千葉県柏市 竣工年月：2016年1月



事業概要

- 透析診療所
- 透析用ベッド：120台

建築概要

階数	地上3階建て
地域制限	法22条区域
防耐火種別	耐火建築物
敷地面積	3,098㎡
延床面積	3,132㎡
構造種別	鉄筋コンクリート造及び木造、一部鉄骨造
設計	株式会社竹中工務店
施工	株式会社竹中工務店
工事工期	2015年1月～2016年1月

木造施設としての工夫

1. 木を現して用いて耐火構造を実現

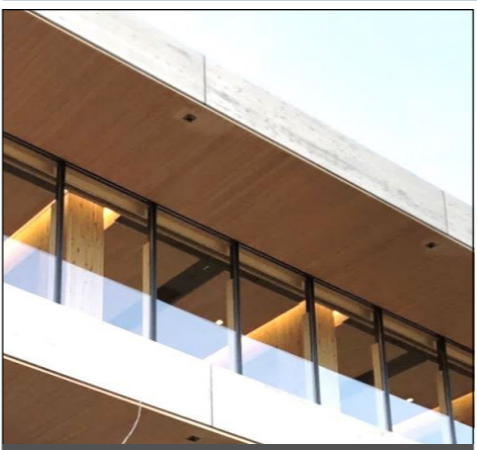


診療の中心となる透析室を木造（耐火集成木材による柱・梁架構）とし、柱・梁の木材（燃えしろ）を現しとしている。天井は不燃処理を施したヒノキ材で仕上げ、木のぬくもりが感じられる診療空間となっている。



荷重を支持するカラマツ集成材を燃え止まり層（モルタル及びカラマツ集成材）及び燃えしろ層（カラマツ集成材）で被覆し、1時間耐火構造を実現している。

2. 木質系の仕上げを内外に連続させ、温かみのある開放空間を実現



透析室外部の軒天井は、開口部から1,750mm張り出し、内部の天井と同一のヒノキ板を用いることにより内外の天井が連続し、空間の広がりを出している。



透析室ベッド上の天井にはヒノキ板を用い、視覚的な落ち着きや温かさが感じられるとともに、ほのかな木の香りで透析室全体を柔らかく包んでいる。



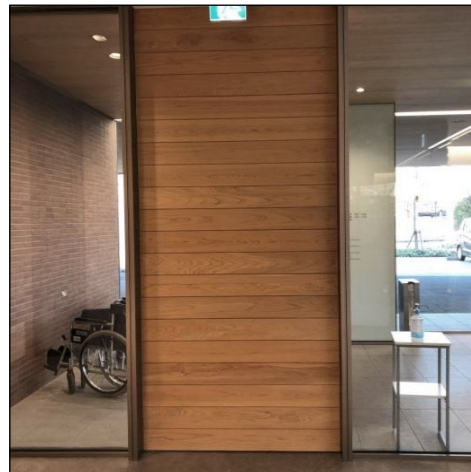
1階ピロティに設けられたエントランス空間の軒天井にもヒノキ板を張ることにより、来院者が温かさを感じられる雰囲気形成している。

施設概要

敷地前面に広がる台地の緑を景観として取り込んだ「森林浴のできるクリニック」をテーマに開放性の高い新しい透析クリニックを目指している。透析に通われる患者が身体だけでなく心も浄化されるような施設となるよう木造化・木質化された空間を形成している。

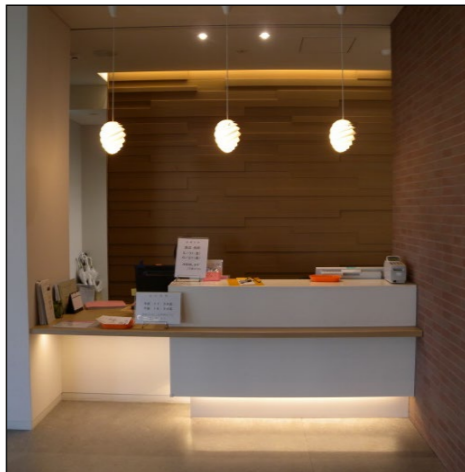
木造・木質化の特徴

3. エントランスホール【外来】



風除室からエントランスホールへの入口の扉を木板仕上げとし、来院者を温かく迎えるしつらえとしている。

4. 受付【外来】



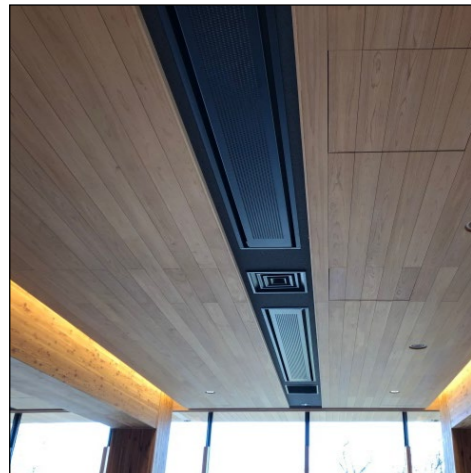
受付背後の壁面を木板張りとし、来院者に安心感を与えると同時にモダンな雰囲気演出している。

5. 階段室【共用動線】



トップライトから光が注ぐ明るい階段室の手摺を木製とし、視覚だけでなく触覚からも温かみが伝わる工夫をしている。

6. 透析室【診療】



処置灯以外の天井設備機器はベッド直上を避けて集約配置し、空調は患者が気流を感じにくい全空気式整流ユニットをスパンごとに設置している。



照明はまぶしさを低減した亚克力付きのスリット型として梁際に設けるなど、ベッドに寝ている患者の目線で快適な環境としている。

7. 診察室【外来】

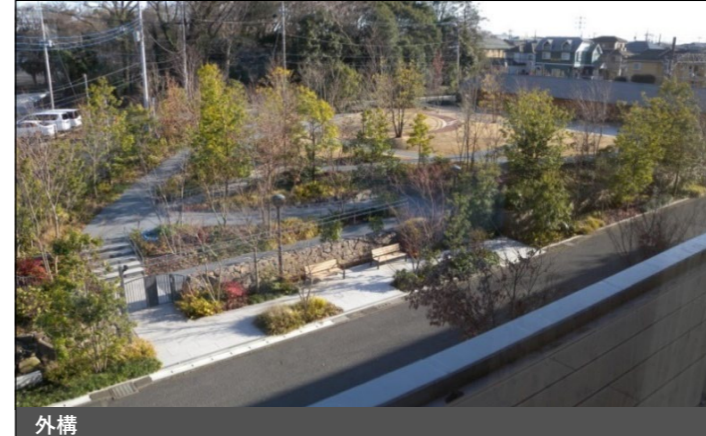


診察室のサインの受材には地元の千葉県産材（山武スギ）を用いている。

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

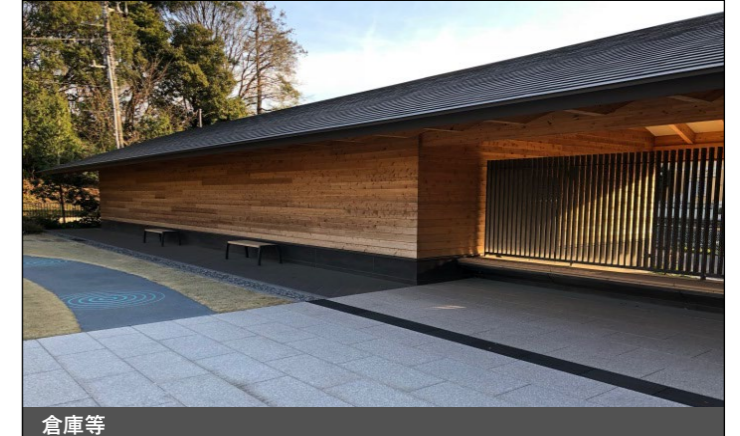
- ・患者がゆったり過ごせる空間づくりや、インパクトがあり他施設と差別化できる仕掛けとして耐火集成木材に魅力を感じ採用した。[運営者]
- ・医療施設はモダン（現代的）なしつらえが似合うと考えており、耐火集成木材ならば実現できると感じ、実際に開放的ななしつらえの実現が可能となった。[運営者]
- ・透析室の床は血液が落ちることがあり、清掃で拭き取れない（特に目地部分）場合があるため、木材ではなくリノリウム仕上げとした。人工透析ではボールペンの芯程度の太さの針を用いることや、患者は年間150回もの透析を行うことにより、血が止まらずに血液が床に落ちる可能性が高いため。[運営者]

施設写真・図面



外構

2、3階透析室の南側に広がる患者の運動療用法用フィットネスガーデン。



倉庫等

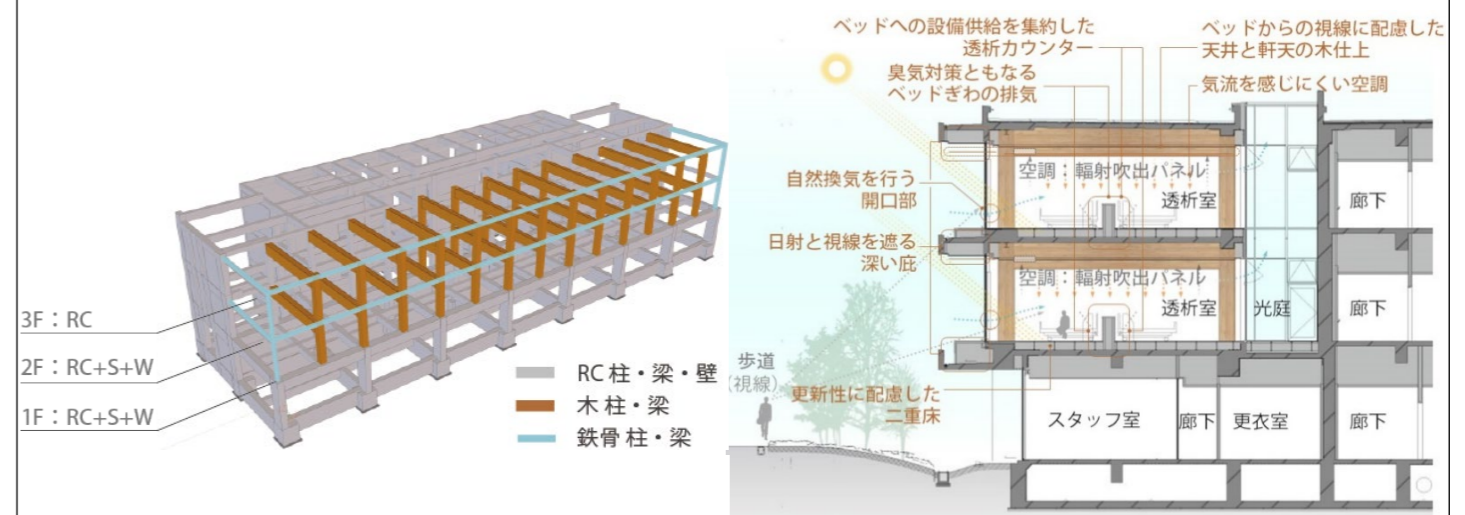
施設南側の患者用フィットネスガーデンに建てられた軒の深い木造倉庫。



2階平面図



1階平面図



3F: RC
2F: RC+S+W
1F: RC+S+W

RC柱・梁・壁
木柱・梁
鉄骨柱・梁

門型木フレームを支える架構モデル

断面図

事例6

宮城県立がんセンター 緩和ケア病棟 ～庭と個室が連続する木質化した緩和ケア病棟～

建築主：宮城県 所在地：宮城県名取市 竣工年月：2002年3月



中庭を囲う病棟



建物外観



ナースステーション

事業概要

- がん緩和ケア病棟
- 特別個室：12室
- 一般個室：5室
- 2床室：4室

建築概要

階数 地上2階建て
 地域制限 法22条地域
 防耐火種別 耐火建築物
 敷地面積 6,124.62㎡
 延床面積 1,930.58㎡
 構造種別 壁式鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 設計 株式会社藤木隆男建築研究所
 施工 佐藤・相澤特定建設共同企業体
 工事工期 2001年3月～2002年3月

木質化の工夫

1. 木質化した内部・外部の生活空間



個室の内観（特別個室）

個室は、床をフローリング、壁の一部を練り付け合板で木質化している。ベッドヘッドの棚、収納などの家具も木質化。特別個室には、ベッド沿いに畳小上がりスペースを設け、家族との団らんの場となっている。電球色の照明を含め、あたたかい雰囲気をつくっている。



個室の外観・テラス

個室から出入りできる木製デッキのテラス。木製のパーゴラ（日陰棚）が設けられ、日向ぼっこや物干しのスペースになる。パーゴラの上面は板金を、柱の脚部は金物を設け、雨水の影響を抑えている。建物は外壁板張り、木製サッシで落ち着きを感じられ、住宅のような印象を与えている。

2. 木質化した個室の細やかなしつらえ



個室（一般個室）

一般個室は、特別個室と同様に床、壁、家具等を木質化している。中庭に面し、開口率が高く、柔らかな自然光が感じられ、木々の緑を臨むことができる。



水まわり（特別個室）

洗面・トイレの仕切り壁材と家具の仕上げ材が練り付け合板で材質が統一されている。室内の木質の雰囲気を整えている。



開口部まわり

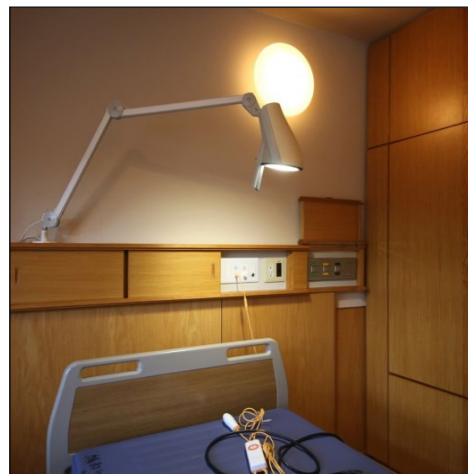
個室から中庭へは、木製サッシで間仕切られている。床の段差はなく、車いす等でも出入りがしやすくなっている。

施設概要

宮城県立がんセンターに併設されている緩和ケア病棟。つらい症状を和らげるための治療とケアを最優先し、症状が緩和した患者が終末期を自宅で過ごすことを支える、医療施設と家の中間施設である。患者と家族が豊かで静かな時を過ごせるよう、日常的な生活のための個室を充実させ、内外に木を用いて温かみのある空間とし、中庭を囲む個室と戸外の親和性の高い関係をつくっている。

木質化の特徴

3. 個室【ベッドまわり】



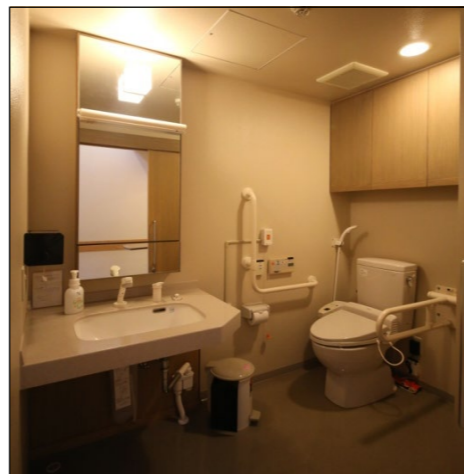
個室のベッドヘッド部分を木質化し、スイッチやコンセントなどのカバーとなる木製の引戸や扉を設置している。

4. キッチンまわり



個室の収納は木製家具でつくられている。ミニキッチンも木質化し、室内の雰囲気に合わせたつくりとしている。

5. 化粧室



洗面化粧室の床は塩ビシート張りとして清掃しやすくし、収納棚や建具は木製としている。

6. 廊下



廊下の床は木製複合フローリング張り。個室側の壁は練り付け合板により木質化している。

7. 開口部



廊下の開口部はアルミサッシの室内側に木製の枠、方立て（窓などのたて枠を支える垂直の補強材）等を設置し、木質感

8. 浴室



浴室の壁はヒノキ板張りにし、木の香りが感じられる。一部黒ずみが生じたが、張り替えにより対応してある。

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

・入所した患者様・ご家族からは「やすらぎ、温かさに包み込まれる感じがする。」「生活をしていて落ち着く。」「ベッドのある部屋から中庭に移動しやすいのはありがたく、ペットとも散歩しやすい。」「個室に畳スペースがあるので、家族がベッドと高さを揃えて一緒に就寝できた。」という声をいただいている。

[運営者]

・「これまで感染が発生したことはない。臭いには気を遣うが、木による消臭効果で生活臭があまりしないので助かる。清掃は専門業者が毎日行っているが、清掃時に拭くのは手すり程度で特別なことはしていない。

[スタッフ]

施設写真・図面



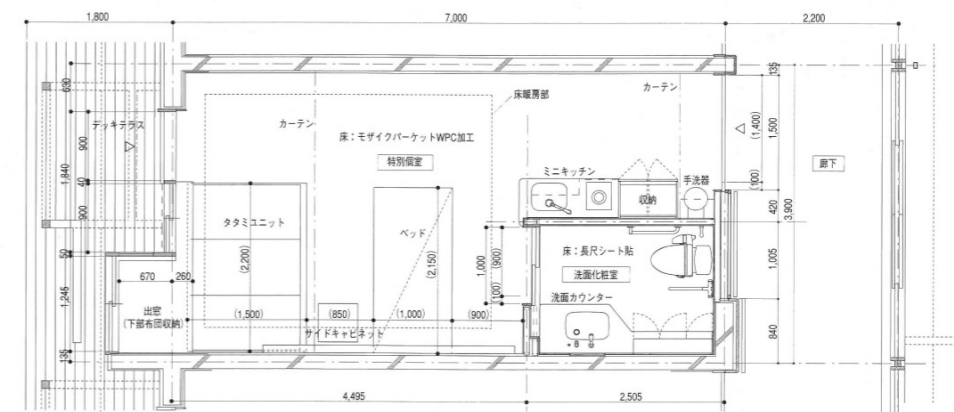
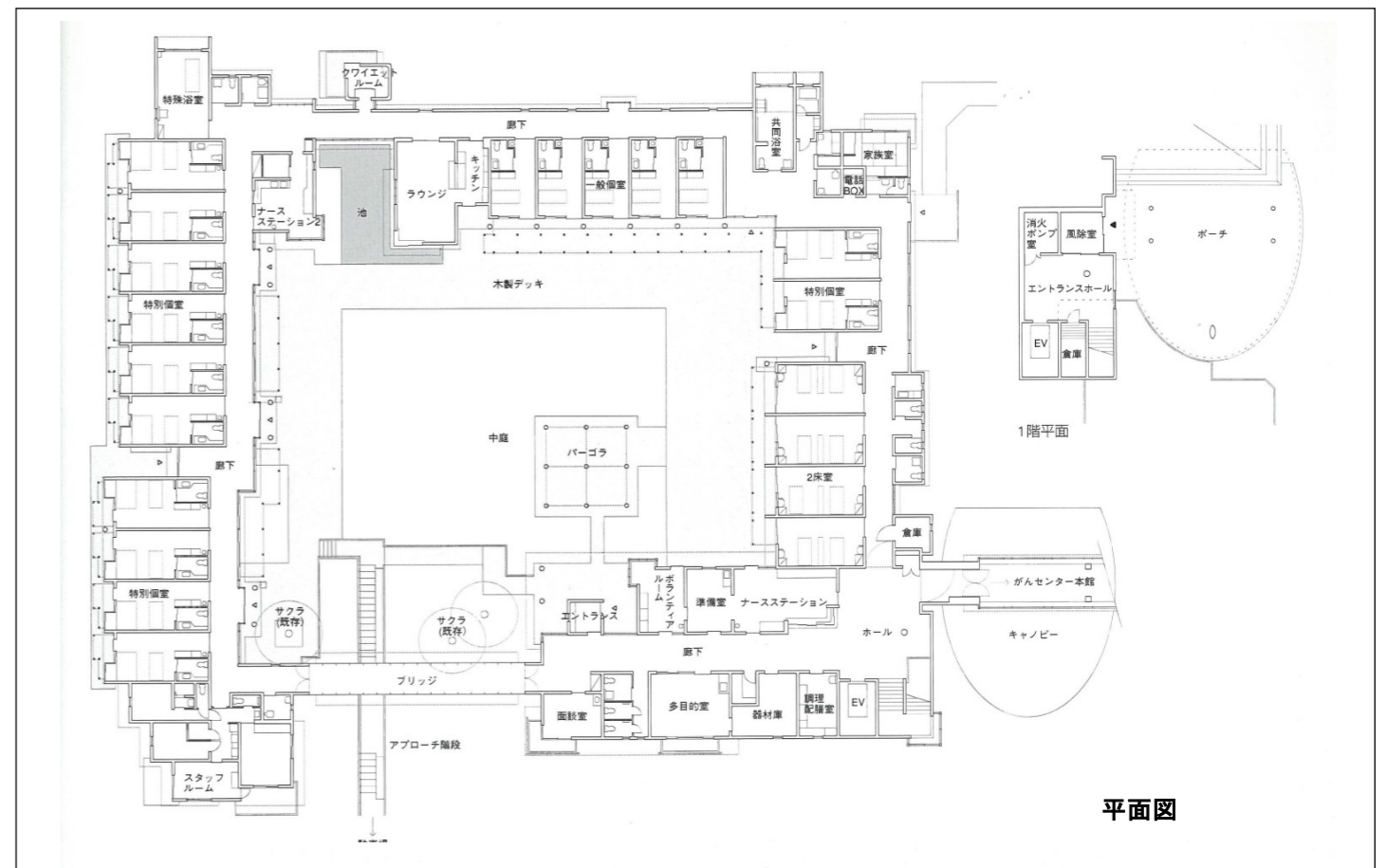
多目的室

患者・家族等との打合せ等を行う部屋は、壁や家具を木質化している。



家族室

患者のご家族が宿泊等に利用できる家族室。和室の設えで、天井や家具等を木質化している。



事例7

医療法人共生会 川湯の森病院

～患者の心身への癒し効果を高める医療施設～

法人名：医療法人共生会 所在地：北海道川上郡弟子屈町 竣工年月：2012年3月



ロビー【外来】



施設外観



待合【外来】

事業概要

●内科・心療内科・精神科・リハビリテーション科病院
病床数：100床

施設概要

本施設は理事長の強い希望により、認知症患者への癒し効果のため木造を選択した。病室ユニットの2階部分を300㎡未満とし、かつ、ジョイント部のRCコアに水平力を分担させ、規格流通材の中小断面集成材の木造躯体とすることを可能としている。温泉エネルギーを6段階にカスケード利用し、CO₂の排出量を60%削減している。

建築概要

階数 地上2階建て
地域制限 市街化調整区域（防火制限なし）
防耐火種別 その他建築物
敷地面積 28,507㎡
延床面積 2,981㎡
構造種別 木造・一部鉄筋コンクリート造
設計 株式会社中村勉総合計画事務所
施工 戸田建設株式会社
工事工期 2011年8月～2012年3月
その他 2010 IBEC第一回先導事業採択

木造施設としての工夫

1. 地域の流通規格材を活用した、合理的な構造の木造施設



ロビー【外来】

極力木材の断面寸法を抑えるために方杖を用い、樹木をイメージした架構形態とし、来訪者をやさしく迎えている。



病室【病棟】

主な構造材には地域産プレカット規格流通材を用いている。内装や家具も木質化し、温かみのある療養空間を実現している。



機能訓練室【診療】

水平力は主としてRCコア部分に負担させることで木造部分の耐力壁量を減らし、開放的な空間づくりを実現している。

2. 内装制限が適用されない部分を木質化する



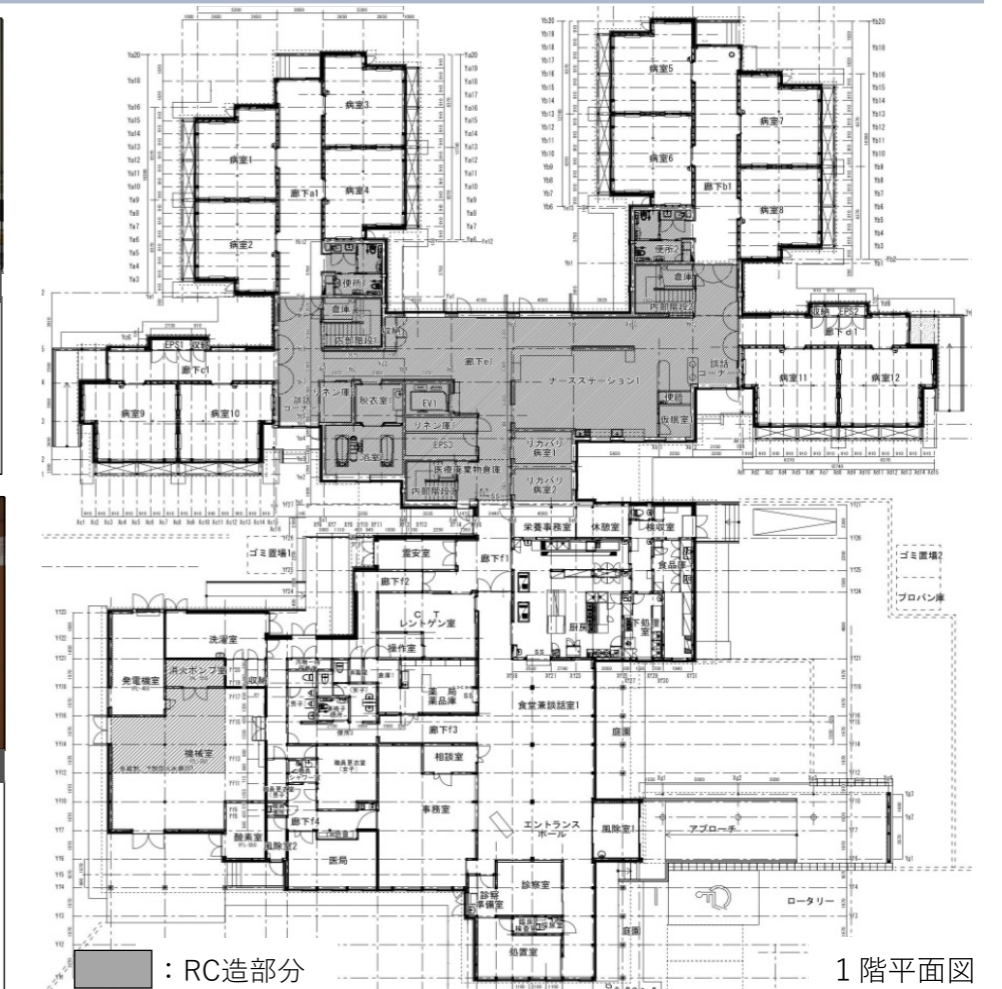
処置室【外来】

内装制限が適用されない床、腰壁、サッシを木質化し清潔感のある処置空間を実現している。



廊下【共用動線】

床は複合フローリング、腰壁にトドマツを張り、また病室出入口建具を木製とし、温かみのある通路空間を実現している。



運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

・木造化、木質化した室内の雰囲気は、入院者及び外来患者から好評である。他の医療施設で落ち着きがなかった患者が転院してきたところ、行動が落ち着いた事例もある。地域の火山の影響により空気中に二酸化硫黄が含まれて金属やコンクリートの劣化が懸念されるのに対し、木造化は耐久性上もメリットがあった。

事例8

平取町国民健康保険病院

～林業の町の町産材を活用した医療施設～

建築主：平取町 所在地：北海道沙流郡平取町 竣工年月：2019年1月



ロビー【外来】



施設外観



エントランスホール【外来】

事業概要

- 病院（内科・外科・循環器内科・皮膚科・眼科）
- 病床数：42床

施設概要

築50年を超過した国保病院の改築計画。RC造と木造による混構造とし、木造部分は町産材集成材（柱・梁）を用いた燃えしろ設計を採用している。また、構造フレームと間仕切り壁の分離が可能なラーメン構造とし、将来的に間仕切り変更を含む用途変更も見据えた計画としている。

建築概要

- 階数 地上2階建て
- 地域制限 都市計画区域外（防火制限なし）
- 防耐火種別 その他建築物
- 敷地面積 6,384㎡
- 延床面積 2,989㎡（別館含まず）
- 構造種別 鉄筋コンクリート造（RC造）・一部木造
- 設計 株式会社石本建築事務所
- 施工 西松・日新特定建設工事共同企業体
- 工事工期 2017年9月～2019年1月

木造施設としての工夫

1. 患者が利用する場所を積極的に木質化する



エントランスキャノピー【共用動線】

キャノピーの雨がかりにならない柱、梁をカラマツ集成材の現しとし、利用者を温かく迎えるしつらえとしている。



病室【病棟】

患者が長時間過ごす病室は、床をナラフローリング、木目調の家具、腰壁でしつらえ、暖色系の柔かい雰囲気を提供。



デイルーム【病棟】

患者がくつろぐデイルームでは、カラマツ集成材により柱梁を構成し、落ち着いた空間を実現している。

2. 木目調素材等も用いて温かみのある空間にしつらえる



廊下【病棟】

床は暖色系の塩ビシート、腰壁と手すりは、木目調の材料を用いて、あたたかみのある廊下空間としている。



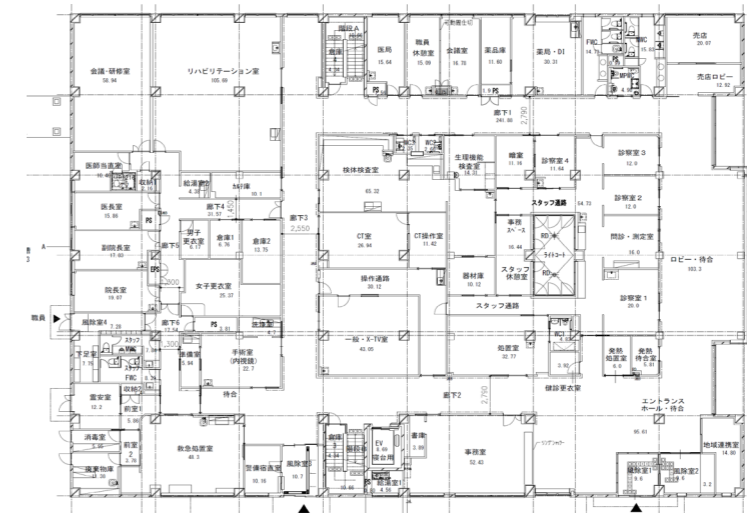
ナースステーション【病棟】

床は暖色塩ビシート、R状の腰壁と手すりは、木目調の材料を用いて、患者が安心して訪れやすい雰囲気をしつらえている。



ロビー・造作【共用動線】

ロビーは、冷暖房設備の目隠し用ガラリを木製とし、木質感を高めている。



1階平面図

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

外来待合とデイルームは、集成材の柱、梁が現しとなっているため木質感が高く、利用者等から落ち着くという声がある。林業の町であるため、木造とすることで地域産業の振興面でのメリットもある。

事例1 TSURUMIこどもホスピス

～木に包まれた空間で家族とくつろげるこどもホスピス～

建築主：こどもホスピスプロジェクト 所在地：大阪府大阪市 竣工年月：2015年12月



施設全景



中庭より東側を見る



1階ホール（ひろい道）

事業概要

- 児童福祉施設等
（コミュニティ型こどもホスピス）

建築概要

階数 地上2階建て
地域制限 準防火地域
防耐火種別 準耐火建築物（口-1準耐）
敷地面積 2,719.90㎡
延床面積 979.11㎡
設計 大成建設株式会社一級建築士事務所
施工 大成建設株式会社 関西支店

木造施設としての工夫

1. 住宅スケールの分棟型配置とし、親しみやすさを実現する



中庭より北側を見る

約8~10mスパンの登り梁の屋根架構による「6つの家」を「道の空間」と呼ばれる溜まりや通路・テラスがつながり構成となっている。住宅スケールの棟を分棟して配置し、様々なオープンスペースに面させて、利用する子どもや家族にとって親しみやすく落ち着ける空間を実現している。



2. 切妻の木造架構を現しとし、家らしさを表現する



2階ホール（みんなの部屋）

子どもとその家族が食事、談話等をして過ごせるスペースを整備。切妻屋根の棟木と登り梁を現しとし、床はナラ無垢フローリング、壁及び天井はシナ合板、木製建具でしつらえ、住宅のようなあたたかみの感じられる空間としている。



施設概要

日本初の「コミュニティ型こどもホスピス」である。入院治療を終え在宅看護へ移行した難病の子どもに家の外で遊びや学び、家族とのくつろぎの機会を提供する施設であり、家族にとっても休息できる場となっている。「家であるだけでなく、村のような場所」をコンセプトに、多様な空間や居場所があり繋がりを持つ場所を創出している。

木造・木質化の特徴

3. 1階ホール（ひろい道）



施設全体にスプリンクラー設備を設置。かつ、自然排煙とすることで内装制限の適用を緩和し木質化している。これ以外に柱・梁、床、壁、建具、家具にも木をふんだんに用いている。



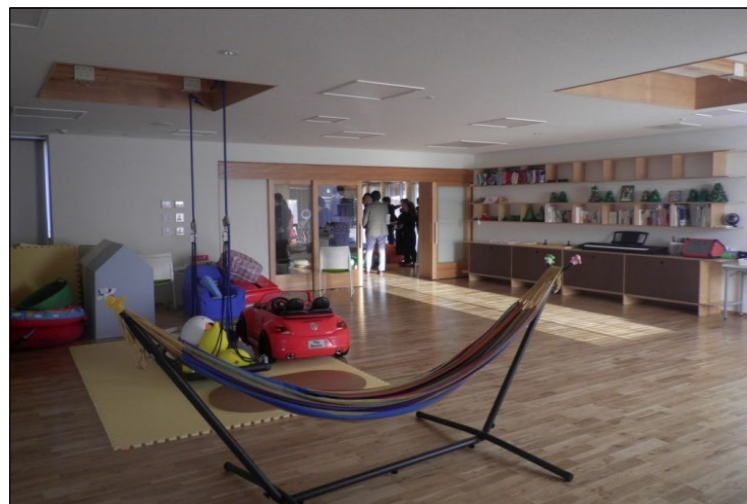
500㎡の防煙区画のために設けられた鋼製建具（常時閉鎖）上部の垂れ壁。壁の仕上げ材には不燃処理を施した木材を使用することにより、木質感の連続性を担保している。

4. 1階廊下（ほそい道）



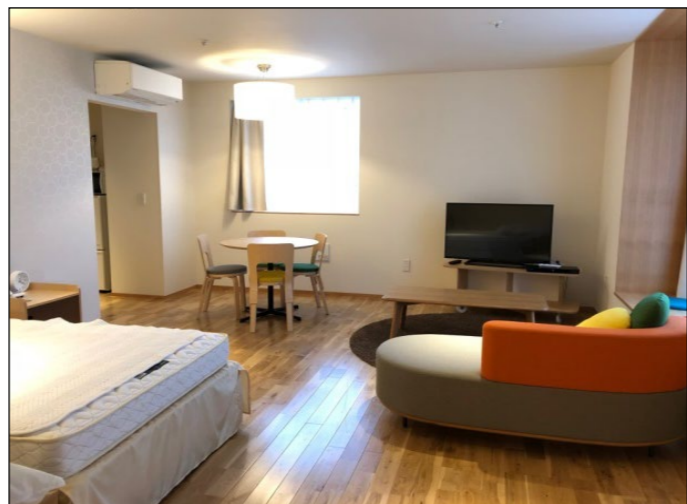
アカマツ集成材の柱及びベイマツ集成材床梁を現しにするるとともに、床及びアイストップとなる壁の一部を木質化し、温かみのある通路空間を実現している。

5. 1階遊戯室（おおきな部屋）



遊戯室は、床をナラ無垢フローリングとし、目に留まりやすい折上げ天井部、建具及び家具を木質化し、室全体を温かみのある印象にしつらえている。

6. 1階休憩室（にわの部屋）



休憩室は、床をナラ無垢フローリング、家具を木製とし、住宅的なしつらえとしている。

運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

運営者による「病院ではなく家であること」という意向を受けて、設計者が提案した木造化・木質化に関連するコンセプトは下記の通り（設計者作成資料から抜粋）。

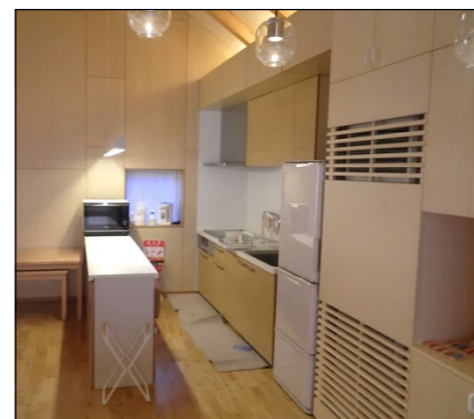
- ・誰もが家と感じられる普遍的な家型が集まり、村のような風景をつくり出す（木造住宅スケールの分棟配置）
- ・インテリアに家型のモチーフを散りばめる（切妻の現しの木造架構、家型の開口部等）
- ・触れて感じる建築とする（様々な樹種、木質材料を用い、木の触感、視覚、嗅覚の体験等）
- ・難病の子どもたちと家族をやさしく迎えるための彩りを与える家具（主に木製）

施設写真・図面



2階休憩室（おおやねの部屋）

切妻屋根の棟木と登り梁を現しとし、床はナラ無垢フローリング、天井はシナ合板、建具及び家具を木製でしつらえ、子どもと家族が自分たちの家にいるようにくつろげる宿泊スペースを実現している。



2階ホール（みんなの部屋）

壁だけでなく収納扉や冷暖房機の目隠しも木質化することにより、部屋全体がやわらかく包まれた印象を高めている。



住宅用サイズの木製家具を配置し、家で過ごしているかのような親しみやすいしつらえとしている。



1階だれでもトイレ

トイレは機能性を優先し、ビニル床シートを採用しているが、木目調として施設全体に統一感を持たせている。



配置図兼1階平面図



2階平面図